



2022(仏暦2565)年 6月号 (第129号)

万行寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460



■住職法話

「ありがたし」と感謝する日常

■浄土真宗 ⑨ 仏事のイロハ

■本願寺の本

ナゾトキ！親鸞しんらん聖人しょうにんものがたり

■編集後記

年忌法要表

1 周忌	2021(令和 3)年	23 回忌	2000(平成12)年
3 回忌	2020(令和 2)年	25 回忌	1998(平成10)年
7 回忌	2016(平成28)年	27 回忌	1996(平成 8)年
13 回忌	2010(平成22)年	33 回忌	1990(平成 2)年
17 回忌	2006(平成18)年	50 回忌	1973(昭和48)年

住職 法話

「ありがとう」と感謝する日常

今月の法語

「あたりまえだ」

と云うア

まだ不足を言うア

生きている

「あたりまえ」の反対(対義)語を調べると「ありがたし」とあります。「あたりまえ」に過ぎていると、「ありがたし」を忘れてしまっている人間の姿が見えてきます。普段の生活の中でも、ありがたみを感じられないなど思う場面にあります。

それは、以前、買い物に行ったリゾート地にあるスーパ

ーでの出来事です。そこで、手押しの大らかなカートを手持って買っている若い男女のグループがいました。これから食事の買い出しでもする様子でしたが、はしやぎながら次々と大量の食材を放り投げるようにカートへ入れていくのです。周りの買い物客も気になった様子で、物のありがたみすら感じられない姿でした。彼らは、リゾート地という開放感の中の行動であつたようにも見えますが、普段から何でも欲しいがあたりまえになっているのでしょうか。

仏教では四苦八苦といわれるように、人間の苦しみを八

つあげています。その中に「求不得苦」があります。それは「求めて得られない苦」ということです。欲しいものが手に入ったとします。しかし、それが手に入って満足したとしても、また他のものが欲しくなり、次から次へと欲は永遠に終わらないのです。今月の法語は、「あたりまえ」の苦しみの生活に陥っている人間の姿を表したものです。私たちの宗派には、「食事のことば」があります。

「食前のことば」
多くのいのちと、
みなさまのおかげにより、
このごちそうを
めぐまれました。

深くご恩を喜び、
ありがとうございます。
「食後のことば」
尊いおめぐみを
おいしくいただき、
ますます御恩報謝に
つとめます。
おかげで、
ごちそうさまでした。
多くのいのち、多くの皆さまのおかげによって恵まれている食事であるからありがたいです。
しかし、どうしても生活の中には「あたりまえ」があふれてしまっています。気づいた時に、顧みて「ありがとう」と感謝する日常を大切にしていききたいものです。



浄土真宗

◎ 仏事のイロハ

二、葬儀を行う

― 悲しみを超えて―

「弔辞ちようじで使わない表現」

「天国」ではなく「浄土」

葬儀を営む目的の一つに、(亡き人)の「死後の行き先を示す」というのがあります。つまり亡き人は、ただ消滅し無価値になるのではなく、私たちを超えて普遍的な価値を持つ存在となって今もなお、私たちに関わり続けてくださると見ていくのです。その亡き人の落ち着き場所を示すというのが、葬儀の大切な役割というわけです。

そんな中で、最近では、亡く

なった方の行き先を「天国」と表現される方が非常に多くなりました。弔辞ちようじなどでも「昇天しょうてんされた…」とか「天国に召された…」と述べられているのを聞くことがあります。キリスト教信者でもないのに、と首をかしげたくなりますが、「この天国という言葉、どうも漠然ぼくぜんと使われていて深い意味はないようです。しかし、やはり、浄土真宗の葬儀ではふさわしくありません。というより、浄土に生まれる



ことこそが浄土真宗の教えの根幹こんかんであり、阿弥陀さまがすべての人びとを救いとるために用意してくださった究極の安住場所なのです。亡き人がどこに行かれるのか、その行き先をしっかりと見定めていく、そのためにお聴聞ちようもんしていただくことが肝要かんようです。天国ではなく、浄土だということ、言葉だけでも知って、使っていただいたく思います。

このほか、弔辞ちようじでよく述べられる言葉に「草葉くさばの陰かげで安らかにやすみますように」というのがありますが、「これも、浄土に生まれた亡き人の有りようとかけ離れていて、ふさわしくありません。浄土に生まれると仏ほとけさまになって私たちの元かえに還かえってきてくださいます。苦悩くなうし迷う私を救うためです。眠ってはおられない

のです。遠いところに行かれたのではなく、実は、いつでもどこでも、私たちの傍そばに来て、励まし支えてくださるのです。それが浄土に生まれるということなのです。

また「御霊前ごれいぜん」「御霊みたま」という言葉も使いません。

「浄土真宗 ◎ 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



～本願寺の本～

「ナゾトキ！親鸞聖人ものがたり」

Toy×ポーズ 佐藤慶樹 著／本願寺出版社 刊
1,650円(税込),

僧侶を中心とする謎解き制作チーム「Toy×ポーズ」が提案するゲームブック。

浄土真宗のキーワードを導くさまざまな謎を解いていきながら、親鸞聖人のご生涯とそのみ教をたどります。

かんたんななぞなぞから、順をおって難しい問題へとレベルアップしていくので、大人も子どもも、家族みんなで挑戦しましょう！

[本願寺出版社ホームページより]



携帯サイト

携帯電話からも商品をご注文いただけます。
QRコードからアクセス→



親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要

立教開宗800年
Joint Celebration
850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

法要期日

2023(令和5)年	
第1期 3月29日(水)～4月3日(月)	第3期 4月24日(月)～4月29日(土)
第2期 4月10日(月)～4月15日(土)	第4期 5月6日(土)～5月11日(木)
	第5期 5月16日(火)～5月21日(日)

毎月16日はShinran's Day 浄土真宗本願寺派
親鸞聖人のご命日です ご参拝ください 龍谷山 本願寺

編集後記

最近から、寺報の表紙にQRコードを付けてあります。これはスマホなどで見取ると、直ぐに万行寺のホームページが表示されるようになっていきます。◆宗派でもIT社会に対応する取り組みを進めています。◆本山の本願寺をはじめ、東京の築地本願寺などもSNSを使った伝道活動に力を入れ始めています。仏教、お寺のことを気軽に知っていただくため必要になってくる気がします。◆万行寺でもインスタグラムを始めました。よろしくお願います。

